

## No. 4 中山間地域における集落営農法人の育成対策

### ～米づくりで継続できる組織を目指して～

豊肥振興局農山村振興部 集落・水田第一班

畑 中 一 広

#### 1 背景・目的

豊後大野市では集落営農法人の育成を進めており、平成21年10月現在で29法人が設立された。これら法人の中で、特に中山間地域の組織は麦・大豆の作付けによる交付金収入が見込めず、また、圃場条件に恵まれていないため受益面積の拡大によるコスト低減も難しい。このような状況下で、中山間地域における稲作経営を柱とした(農)阿志野郷が平成19年1月に設立された。

本報告では、条件不利地域での低コスト・付加価値米づくりに取り組む(農)阿志野郷の事例を発表する。

#### 2 活動内容

##### (1) 組織の概要

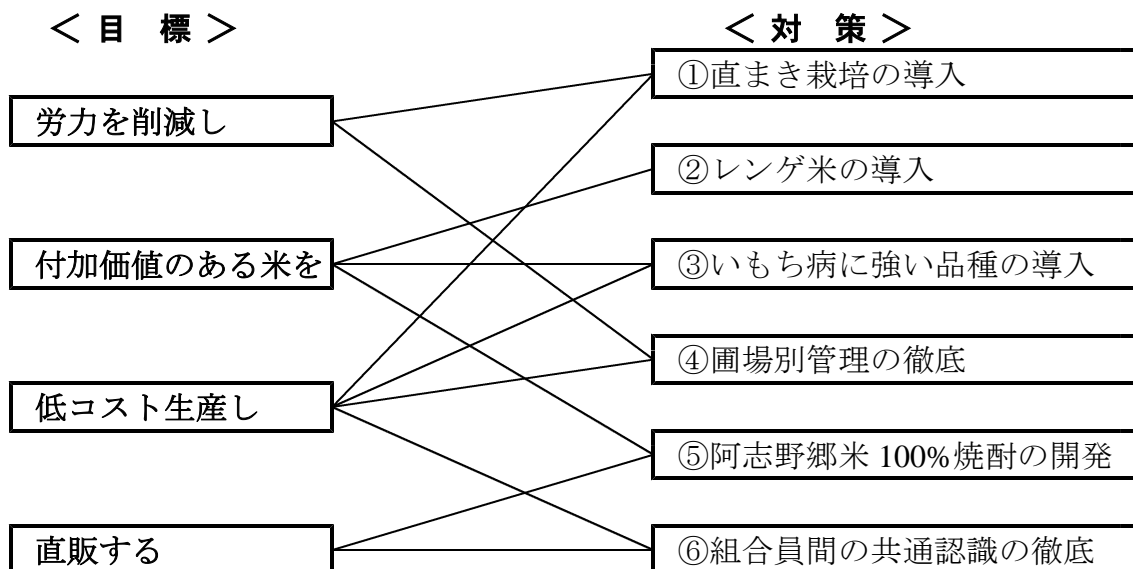
- ・ 標高350m、集落農家戸数23戸
- ・ 法人構成員戸数23戸、高齢化率51%(65歳以上)
- ・ 利用権設定面積13.2ha (地区内水田面積19ha)
- ・ 管理圃場枚数120枚 (圃場平均面積8.3a)
- ・ 主要品目 水稻7.1ha、飼料用米1.1ha、ニンニク10a、水田ごぼう10a
- ・ 経営の特徴 水稻の栽培から販売までの一環経営



##### (2) 経営の安定化に向けた取り組み

設立時に経営試算を行い、「60kg当たり16,000円で販売する」目標を設定。

平成19年度から、付加価値を高めるとともにコストを削減するため以下の技術対策・管理対策に取り組んだ。



・直まき栽培は市内で定着しておらず、地区でも初めての取り組みであったため、平成20年度に水田農業研究所の協力の下30aの実証圃を設置。管理方法を学んだ後、21年度にショットガン播種機を購入し、一気に2.2haで栽培に取り組んだ。

・いもち病に強い品種である「おおいた11」を導入し、減農薬栽培に取り組んだ（直まき栽培用1.1ha）。

・レンゲ米、焼酎「あさぢ」の開発等により、阿志野郷米の知名度アップを図った。

### 3 成果

・直まき栽培技術が定着し（H21：2.2ha）、他地区へも波及した（緒方町H21：0.8ha）。

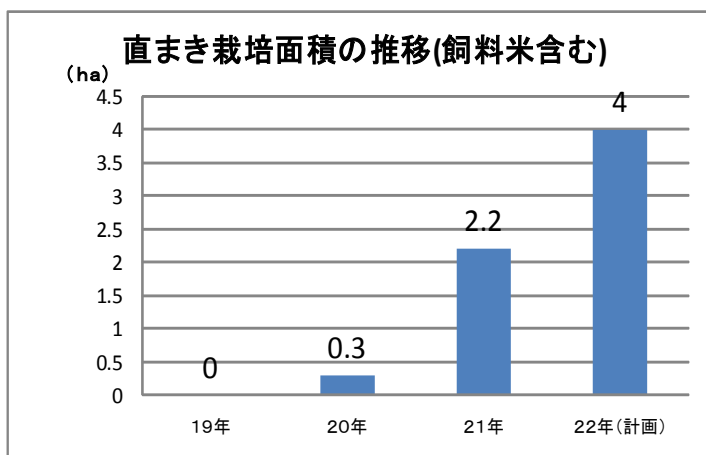
・直まき栽培を導入することにより育苗・播種にかかる労働時間が40%削減された。

・苗運搬、田植えの労働負担が減り、特に高齢組合員からの不満の声が減少した。

・レンゲ米の導入、焼酎の開発により阿志野郷米のPR力・販売力が高まった。

・全量直接販売（H19：16,000円、H20：17,000円/60kg）により収入が安定した。

＜直まき栽培面積の拡大＞

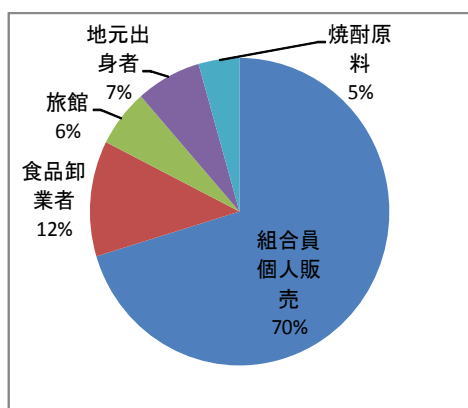


＜労働時間の削減＞

10a当労働時間（播種～水管理）(h)

	移植	直まき
種子準備	0.8	0.8
は種	3.2	—
カルパコーティング	—	1.0
育苗管理	1.0	—
耕起・代かき	6.4	2.4
田植え	5.6	—
直まき播種	—	4.0
苗箱片付け	0.6	—
水管理	2.0	3.0
計	19.6	11.2

＜全量直売の達成＞



＜稲作経営の推移＞

項目	年	H19	H20	H21 (見込含)	県平均 (H19)
水稻作付面積(a)		807	685	713	79a
	うち直播面積	0	30	110	
10a当収量(kg)		406	465	432	470
10a当売上(円)		111,700	137,300	127,000	110,699
10a当コスト(円)		120,183	128,095	125,000	124,948
10a当労働時間(hr)		52	52	50	28
10a当利益(円)		△ 8,483	9,205	2,000	△ 14,249
10a当地域還元額		70,705	66,941		

※還元額とは、経営総支出における小作料、賃借料、労賃の総額

### 4 今後の取り組み

①低コスト対策（労務管理の徹底、乾田直まき・苗箱全量施肥・畦草ネット導入の検討）

②収量向上対策（堆肥の連用、揚水施設の設置、鳥獣害対策の徹底）

③高単価販売対策（食味計を活用したうまい米のPR、「焼酎あさぢ」とのセット販売）